

2017
9月

月次 39レター

毎月発行するお客さまへのお知らせレターです

第157号-①【基準日 2017年8月31日】



🌸 社長メッセージ



第13期ありがとうファンド決算を迎えて

ありがとう投信株式会社
代表取締役社長 長谷 俊介



皆さま、いつもありがとう投信をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。

おかげさまでありがとうファンドは8月末で第13期の決算を迎えることができました。これもひとえに皆さまのご支援の賜物であると感謝しております。誠にありがとうございます。

この1年間を振り返って見ますと、トランプ大統領の就任やポピュリズム政党の台頭、北朝鮮問題等の地政学リスクや米国の金融緩和の出口戦略に影響を受けるマーケットでありましたが、そのような環境の中で弊社では長期国際分散投資で安定した運用パフォーマンスの提供を目指して、グローバルに実績のある新規投資先パートナー・投資先ファンドの採用を行い、資産配分及びポートフォリオの見直しを進めてきた結果、リスクを抑えながら安定した運用パフォーマンスの提供をすることができたのではないかと考えております。

弊社ではこの1年、様々なことに全力でチャレンジして参りました。ありがとうファンドの運用面では、新投資先パートナーとして、アライアンス・バーンスタインとアリアンツ・グローバル・インスターズの運用実績が良い外国籍ファンドを合計5本投資対象として採用し、米国、欧州、新興国への分散効果を高めて参りました。



また、資産配分については国際分散投資の観点から定期的に見直しを行い、各国地域の時価総額と純資産総額をベースに、今後の名目GDPの成長率や企業利益の成長率等を加味した資産配分に変更して、外国資産の配分が約9割になっております。

サービス面では、WEBサイトを刷新してスマホでもPCでも見やすくわかりやすい、親しみやすいサイトにいたしました。はじめての方向けのコンテンツやお取引ガイドも充実させ、さらに、マイページWEBシステムも導入し、お客さまがありがとうファンドの保有残高や評価金額、取引履歴、電子交付書類などをいつでも、どこでも確認できるようになりました。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

また、弊社の専門家ネットワークを活用して39コンシェルジュサービスを開始いたしました。これは、資産運用だけでなく税金、相続、保険、法律問題など様々な問題解決をお手伝いさせて頂くサービスで、具体的には、相談内容に応じて、適切な専門家の方を弊社がコンシェルジュとなりご紹介させていただきます。既に多くのお客様にご利用いただいております。



セミナーや勉強会、個別相談会については、前年よりも大幅に回数を増やして年間150回以上積極的に開催して参りました。ありがとうファンドの運用報告や投資先パートナーの紹介、ゲストを招いてのテーマセミナー、初心者向けのセミナー、証券税制やDC制度の解説などのセミナー、保険や法律問題などの39コンシェルジュセミナーなど多彩なテーマで開催し、お客様にご満足していただけるように努めてまいりました。

また、お客様に交付する目論見書や口座開設時の申込書や資料などもすべてリニューアルして、今まで預貯金だけしか経験したことがないお客様にもわかりやすい内容に改善いたしました。



それから、今年の4月からは、株式会社SBI証券を運営管理機関とするSBI証券ダイレクト401Kプランを含む10個の企業型確定拠出年金 (DC) プランへのありがとうファンドの商品提供も開始いたしました。老後の資産形成の重要性が高まる中、企業型DCへの商品提供を通じて現役世代の方の資産形成をお手伝いさせていただければと考えており、各企業の投資教育もサポートさせて頂いております。

このように第13期は第二の創業と言えるくらい、弊社創業の原点に回帰して一つ一つ全力で取り組んで参りました。この成果は第14期以降に徐々に出てくるものと確信しております。

今後の予定についてですが、11月末の有価証券届出書の提出に合わせて新投資先パートナー・投資先ファンドをさらに追加する予定で既に事務手続きを進めております。

引き続き長期的な資産の成長を目指して国際分散投資を行って安定した運用パフォーマンスの提供ができるように、株式以外の資産クラスを投資対象とするファンドを追加する予定です。詳細につきましては近くなりましたら別途ご案内させていただきます。お客さまの将来を見据えた資産運用をこれからもサポートさせていただければ幸いです。

弊社はこれからもお客様のご期待に応えられるように役職員一同精進して参りますので、引き続きご愛顧の程何卒よろしくお願い申し上げます。

よくわかる資産運用ABC



【はじめてシリーズ第3回】 投資信託の種類と分類、選び方について



今回は、はじめてシリーズの第3回目として投資信託の種類と分類、選び方について取り上げたいと思います。前回は株式と債券の違いについて見てきましたが、皆さんがはじめて投資・資産運用をする場合、その入り口となるのは投資信託(ファンド)ではないかと思います。そして、ファンドを通じて株式や債券に投資することになるのではないのでしょうか。

ファンドと一言でいっても投資対象の数だけ種類があります。

現在、皆さんが投資できる公募の投資信託だけで6000本以上あります。伝統的な投資対象である株式や債券だけでなく、不動産(リート)や商品(コモディティ)に投資するもの、デリバティブを活用したものまで様々な種類のファンドが作られています。

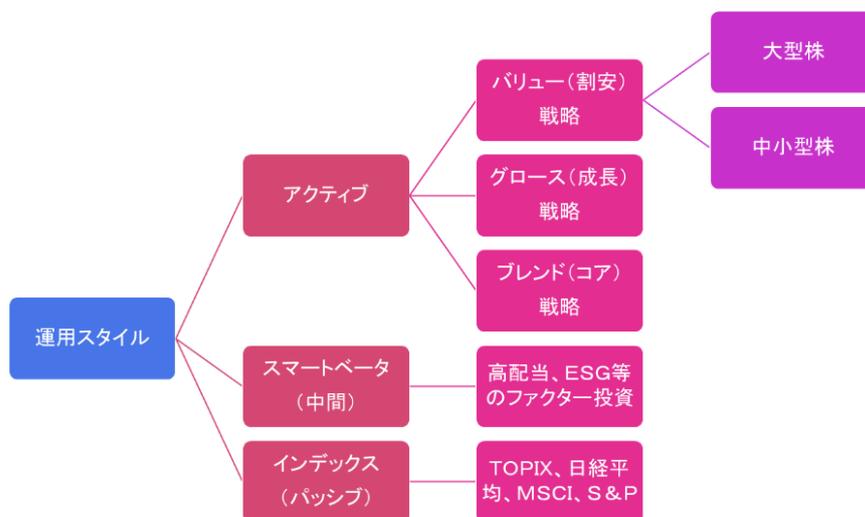
資産クラスの観点で考えると、ファンドは基本4資産として日本株式、日本債券、外国株式、外国債券に分類されて、その他に不動産(リート)、商品(コモディティ)などに大別することができます。

分類	国内	外国
株式	日本株式	外国株式
債券	日本債券	外国債券
不動産	国内リート	海外リート
	商品(コモディティ)	

基本4資産

同じ資産クラスの中でも国や地域の違い、通貨の違い、運用手法の違い、運用スタイルの違い、決算サイクルの違いなどによっても様々な種類に分類することができます。例えば、株式に投資するファンドの場合、日本株なのか、外国株なのか、先進国なのか、新興国なのかなど、各国・地域の違いだけでも様々な種類に分けられます。

さらに、運用手法・運用スタイルで分類すると、アクティブ運用、インデックス(パッシブ)運用、スマートベータ、バリュウ(割安)戦略、グロース(成長)戦略、ブレンド(コア)戦略、中小型株戦略など様々に分けることが可能です。



運用手法・スタイルでは、インデックス(パッシブ)運用とアクティブ運用に大きく分けることができます。

インデックス(パッシブ)運用は、対象とする指標に連動することを目指します。インデックス運用のメリットは指数に連動するように機械的に運用するだけなので低コストで運用することができて、運用の継続性のリスクが少ない点にあります。デメリットは、業績の良し悪しに関わらず投資することになるので、市場全体が成長、上昇していかないとリターンが得られない点です。例えば、業績が悪化して不適切会計、債務超過問題で上場廃止の可能性も叫ばれている東芝でさえ指数に採用されていればインデックス運用の場合は投資対象になります。いい企業もそうでない企業も買われるインデックス運用が主流になると、適切な価格形成機能が働かず、マーケットの健全性が損なわれるという懸念もあります。

一方のアクティブ運用は、投資銘柄を絞り込み厳選して指標を上回る超過収益(+ α)や絶対リターンを目指して運用していきます。メリットとしては、上手に運用できれば市場平均であるインデックスを大きく上回ることができ、市場平均が横ばいのマーケットでも上昇を狙っていくことができます。

デメリットとしては、インデックスと比べて企業調査などに手間暇がかかるのでコストが高いこと、ファンドによって成績のバラツキが大きいこと、チーム運用でない場合は担当者交代による運用の継続性リスクなどが挙げられます。そのため、アクティブ運用の場合は長期での運用実績をしっかりと確認する必要があります。

インデックス運用

- 【メリット】低コストであること。運用の継続性のリスクが少ない。⇒指数に連動する機械的に運用するだけなので。
- 【デメリット】業績の良い企業にも悪い企業にも投資することになる。市場全体が成長していかないと収益が得られない。

アクティブ運用

- 【メリット】上手に運用すれば市場平均(インデックス)を大きく上回る超過収益(+ α)を狙うことができる。
- 【デメリット】高コストであること。チーム運用でない場合は担当者変更による運用の継続性のリスクがある。

ファンドには、単一資産クラスのものや複数の資産クラスに投資するものがあります。日本株式、外国株式、日本債券、外国債券などはそれぞれ単一資産クラスなので、それ1本持っていては資産分散の観点からは不十分であると言えるので、別の資産クラスのファンドと複数組み合わせる必要があるでしょう。

複数の資産クラスに分散しているファンドには、国際分散投資ファンド、バランス(資産複合)型ファンドなどがあります。複数の国・地域に分散投資してカントリーリスクを分散して世界経済の成長を享受することを目指すのが国際分散投資ファンドであり、株式や債券だけに投資しているものあれば、株式、債券、不動産など、国地域だけでなく複数の資産クラスに分散投資しているものもあります。後者は国際分散のバランス型ファンドに分類することができます。

資産配分を自分で決定して、単一資産クラスのファンドを複数組み合わせる運用するのが難しい方には、専門家に資産配分についてもお任せする国際分散投資ファンドやバランス型ファンドなどの中から自分に合ったものを選ぶのが無難ではないでしょうか。

バランス型ファンドには、組み合わせる資産の種類と資産配分比率の違い、さらに各資産クラスの運用手法がインデックス運用なのか、アクティブ運用なのかによっても分類することができます。

資産配分比率については、ファンドの運用方針としてあらかじめ固定で資産配分比率が決まっている資産配分固定型と、経済やマーケットの動向によって資産配分を変更する資産配分変更型の2つに大別されます。例えば、固定型は株式と債券に半分ずつ配分したり、株式と債券と不動産に3分の1ずつ配分したりするようにあらかじめ決まっておき、マーケット状況が変わっても途中で変更はされません。

また、インデックス運用するバランス型ファンドの場合、各資産クラス内での超過収益は狙えないので、資産配分比率の違いによって運用実績に差がつくことになります。一方、アクティブ運用するバランス型ファンドは、超過収益の要因が、資産クラス内での超過収益と資産配分の良し悪しでの超過収益の2つの要因によることになります。



運用成果の9割は資産配分で決定されると言われている通り、2つの要因のうち、相対的により重要なのは資産配分の方になります。

バランス型ファンドの資産配分変更型は、資産配分をアクティブに変更して超過収益を狙っていくファンドでもあります。この点が資産配分固定型のファンドと大きく異なります。ちなみに、ありがとうファンドは資産配分変更型のアクティブファンドになります。

以上のようにファンドで資産形成をしようと思った場合は、資産配分を自分で考えて決めてそれぞれの資産クラス毎にファンドを自分で選んでいくか、あるいは、自分で決めるのが難しい人は、資産配分があらかじめ決まっているファンドや資産配分を専門家にお任せするタイプのファンドを選んでいくのがおすすめです。

分類	国内	外国
株式	日本株式	外国株式
債券	日本債券	外国債券
不動産	国内リート	海外リート
商品(コモディティ)		

選択肢②:
専門家に資産配分
お任せする

1. 資産配分固定型
あらかじめ資産配分比率
が決まっている
2. 資産配分変更型
状況によって資産配分を
変更する

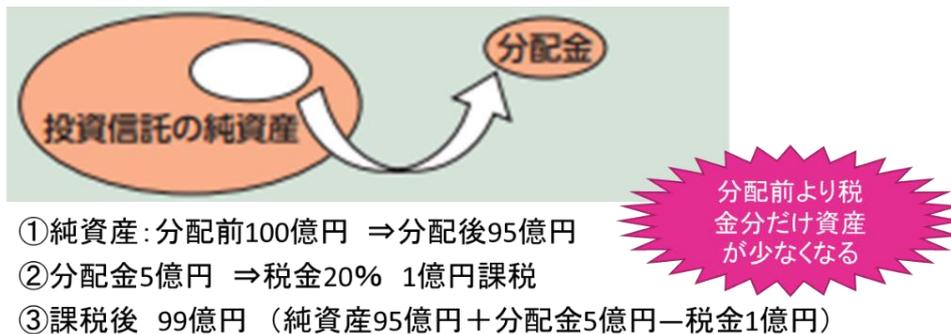
選択肢①:
自分で資産配分決定

次に、新聞や雑誌、テレビなどの広告宣伝や販売会社(銀行・証券会社)などでよく見聞きする色々なファンドについて個別に解説していきたいと思えます。

1. 毎月分配型ファンド

毎月分配型ファンドですが、これは読んで字のごとく毎月決算があつて分配金が出るタイプのファンドです。定年を迎えて退職金を受け取ったシニア世代をターゲットに銀行や証券会社が 15 年前くらい積極的に販売してきたタイプのファンドで投信の販売残高の上位を独占してきました。

しかしながら、ファンドとして分配金を出すとその分だけファンドの純資産残高は減少することになります。本来は運用して増えたリターン分を再投資に回すことによりファンド全体の資産が複利で増えていくことが期待できますが、毎月分配して再投資せずにファンドの外にキャッシュアウトしていくので複利効果が得られず、長期の資産形成には向かない商品であると言えます。また、販売競争が激化して高い分配金を得るために偏った資産のみに投資しているファンドが多く、資産分散の観点からも分散投資が不十分であるものが少なくありません。



例えば、米国リートやジャンク債と言われる信用力の低い米国企業の社債に投資する米国ハイイールド債に投資するものなど、特定の国の特定の資産クラスのみに投資しているので、資産分散が不十分でマーケットの状況次第では高いリスクを抱える可能性もあります。

最近では、金融庁もこのような投信は資産形成に向かないということで、銀行や証券会社の販売姿勢を注視しており、顧客本位の業務運営が求められている中、徐々に割合が減っていくのではないかと考えられます。

2. 通貨選択型ファンド

このファンドは、一般的に 2 階建ての商品と言われており、通常の株式や債券のファンドにプラスして、為替デリバティブを活用して、さらなる運用収益の上乗せを狙うファンドです。毎月分配金を出すための原資にするためにこのような複雑な仕組みにしているケースが多く、毎月分配型ファンドでこの通貨選択を採用しているケースが多いようです。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目録見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

2階

為替デリバティブ

1階

株式や債券の運用損益

通常のファンドは
この部分だけ

例えば、米国株式ファンドで通貨選択型(ブラジルリアルコース)というファンドがあり、通常の米国株式の運用損益にプラスして、米ドルとブラジルリアルの為替デリバティブを組んで、金利差分の収益の上乗せを行うものになりますが、マーケットが想定通りにならないければ為替デリバティブの部分で損失が発生することもあります。

このファンドの問題点は、仕組みが複雑であり、デリバティブを利用するので信託報酬とは別に見えないコストもかかっていてコストが割高になるため、長期の資産形成には向いていない点です。

上記のケースで言えば、米国とブラジルに投資したいのであれば、通常の米国株式ファンドとブラジル株式や債券のファンドに分散投資するか、外貨預金でブラジルリアルに預ければよいのではないかと考えます。所詮は毎月高い分配金を出すために考えたついたスキームであり、長期投資や資産運用の王道ではありませんので、これらのファンドの賞味期限は総じて短くなると思われれます。

3. テーマ型ファンド

流行のテーマに乗って作られたファンドで、販売会社が売りやすい商品として作られることが多いです。

今ですとフィンテックだとか AI だとかロボティクスなどを冠したファンドが作られて販売されておりますが、投資対象も特定の業種・資産に偏っているので分散も不十分になっています。また相場が一番盛り上がっている時期に設定されることが多いので安定した運用実績を出すことも難しいのではないかと思います。基本的にこの手のファンドは賞味期限もせいぜい数ヶ月~1年くらいで販売会社にすすめられても買わない方が無難で、買ってしまつと次から次へと新しいテーマ型商品の乗り換え勧誘・回転売買のターゲットになりかねず、販売手数料分だけどんどん資産がすり減っていくことになるので注意しましょう。



過去にはバイオ関連やシェールガス、エコファンドなど旬なテーマを冠したファンドが数多く作られ、トランプ大統領就任によって恩恵を受けると期待されるセクターに投資するトランプ銘柄ファンドなども昨年末から今年の年初にかけて作られましたが、トランプ政権の混迷ぶりを見れば、これらのファンドの賞味期限がどのくらいは皆さんも大体想像できるのではないのでしょうか。

4. レバレッジ型のブル・ベアファンド

短期売買で収益を上げることを目指すようなファンドとして、レバレッジ型のブル・ベアファンドがあります。

例えば日経平均株価が1上がると基準価額がその3倍値上がりし(ブルファンド)、逆に1下げると基準価額がその3倍値上がりする(ベアファンド)ファンドがあります。

本来の投資の王道である長期投資・分散投資を目指すファンドではなく、ファンドという器を使ってレバレッジをかけた信用取引や空売りをするためのようなファンドです。

長期・分散・積立投資での資産形成には全く向かないファンドであり、ハイリスク・ハイリターンの短期の投機(ギャンブル)用のファンドと言えるでしょう。間違っても運用成績だけを見て良いからと言って購入することがないように気を付けましょう。



5. リスク限定型の投信

一定の条件の下で、元本や利回りが確保されるファンドで、リスク(損失)が限定される仕組みをとっているファンドをリスク限定型の投信と言い、様々タイプの商品があります。

リスクを限定する方法としては、銀行保証を付けているタイプや短期金融商品・債券と先物等を利用したタイプ、あらかじめ償還価額の上限、下限が限定されている日経平均株価などの指数に連動する仕組みに投資するタイプのものなどがあります。

具体的なファンドとしては、リーマンショック前に銀行窓販などで投資経験のない高齢者などに大量に販売されたファンドとしてノックイン投信、ノックアウト投信があります。満期までに日経平均株価が現在よりも30%以上株価が下がらなければ5%の利回りが保証されるというようなファンドです。そして、もし30%以上株価が下がった場合は日経平均株価に連動して満期に償還されるというようなファンドです。一見するとリスクが限定されていて、高い利回りが保証されているので良いのではないかと思います。このファンドはリターンが限定されていて、リスクが限定されていない「利益限定・損失無限定」のハイリスク・ローリターンのファンドになりますので、投資リスクをとる観点からは割に合わないファンドです。

実際に、リーマンショックのときにノックイン、ノックアウトが大量に発生して苦情が殺到し、適合性原則、説明義務違反などで訴訟にもなっている悪名高いファンドでもあります。

また、別のタイプの商品として、プロテクトラインを設けていてそのライン以上は損失が発生しないタイプの商品もあります。例えば、設定価格より10%下落した水準をプロテクトラインとして、もし10%下落したらその価格で繰上償還するという商品です。損失が最大10%に限定されるという点でリスクが限定されていると言えますが、実際は10%下落したタイミングで償還しようとしても時間がかかり、運用資産がさらに下落する場合もありますので、その分については保証契約を金融機関と結んでおき下回った分を保証するようになっています。

保証契約を結ぶので保証料が信託報酬とは別にかかってきますし、万が一保証契約を結んだ金融機関が経営破たんした場合は、保証されませんので、プロテクトライン以上の損失が発生する可能性もゼロではありません。

このタイプのファンドの運用ですが、プロテクトラインを下回らないように運用するので、元本確保するために大半の資産をリスクの低い短期金融資産や現金などの安全資産で運用して、残り 10%~30%を債券や株式などで運用してきます。実質運用に回されている資金は全体の一部で大部分は安全資産に置かれています。しかしながら、信託報酬や保証料などは全体の残高に対してチャージされてきます。安全資産にも手数料がチャージされるのは定期預金に高い手数料がかけられているようなものでまったものではありません。このようにコストが割高になるので、お勧めできるファンドではありません。

もしリスクを限定したいなら、リスク許容度に応じて投資金額で調整した方が合理的です。例えば、100 万円資金があって最大損失を 10%以内にしたのであれば、90 万円は預金のままにして投資せず、10 万円のみを投資して運用する形にすれば、リスクを限定して運用することができて、安全資産部分に余計なコストも課されることがなくなりますし、運用途中で繰り上げ償還されることもないので長期で運用を継続することができます。リスク限定型ファンドは、リスクを限定する運用をしているのでリターンも限定的となり当然大きく増やしていくことは期待できません。仮に長期投資をしたとしても、通常のバランス型ファンドや国際分散投資ファンドのように長期で資産を増やしていくことは期待できず、ローリスク・ローリターンの運用成果しか期待できないでしょう。定期預金が満期になったタイミングに、銀行窓口で行員さんからセールスを受けると安全で良さそうかなと思うかもしれませんが、冷静に考えれば決してお得なファンドではありませんのでご注意ください。



以上のように、販売会社などで売れ筋やおすすめ、新規設定されたファンドというのは、販売手数料も高く、長期の資産形成・資産運用には向かないファンドがほとんどです。

金融庁も日本の投信販売の現状に問題意識を持っており、長期の資産形成に向くファンドの提供を運用会社に求めております。来年 1 月から始まるつみたて NISA はインデックスファンド中心ではありますが、長期での資産形成を促進させるために導入される予定であり、徐々に毎月分配型ファンドやテーマ型ファンドなどは少なくなっていくのではないかと考えます。

最後になりますが、ありがとうファンドでは、「長期投資」、「国際分散投資」、「厳選投資」の投資哲学のもと、リスクを分散しながら世界経済および企業の利益成長の恩恵をリターンとして享受できるように運用しており、株式を中心としながら資産クラスも分散して、長期的な資産の成長を目指して今後の成長性を加味してアクティブにグローバルなアセット・アロケーションを実施して安定した運用パフォーマンスの提供ができるように努めております。

🌸 積立投資のススメ！

長期投資には、コツコツと分散しながら長期に渡って購入する「定期積立サービス」がおすすめです♪

「定期積立サービス」とは…毎月決まった日にお客様が決めた金額を、自動で購入してお客様の資産をコツコツ積み立てていくやり方です。引落とし手数料も無料♪お忙しい方にもおすすめの投資方法です。



①『無理なく続けられる』

お手元にまとまった資金がなくても、毎月少しずつ積み立てることで大きな資産へとつながっていきます。貯金感覚で続けていきながら、複利効果でリターンチャンスとなります。

②『リスクを分散』

定額での購入で基準価額が高い時に少なく、安い時に多く投資することができます(ドル・コスト平均法)。相場がいい時もよい時も投資を続けることで、平均買付単価を低く抑える方法です。



③『時間分散』

タイミングを分けることで、リスクを分散することができます。時間を味方につけることで、長期でじっくり投資を続けることができます。

期間	平均取得単価	損益
1年	16,241円	9.96%
3年	15,578円	14.64%
5年	13,576円	31.54%
初回(2004年10月)から	10,777円	65.71%

右の表は過去の実績として、ありがとうファンドを10,000円ずつ1年、3年、5年、12年と定期で積み立てた場合の実際の平均取得単価と損益となります。続けていくほど利益がでているのがわかるかと思います。

2017年8月31日現在(基準価額:17,859円)

投資信託をいつ買えばよいか？とのお客様の声が多いですが、投資信託は、タイミングではなく、時間での分散が効果的です。長期で常にタイミングを計ることはとても難しく、かなりの労力を必要とし、それでも確実にいいタイミングで買える保証はありません。

それよりも、ゆっくりと長い時間をかけて、コツコツ投資していくほうがはるかに続けやすく買付単価を平均化されることで、分散の効果が得られます。投資先パートナーであるキャピタルでも投資の心得として“Time, not timing, is what matters”と掲げており時間分散による長期投資の効果の重要性を語っています。



タイミングを見計らうのではなく、時間を味方につけていきましょう！

※上記表は毎月同一金額を継続して積立した場合の平均取得単価となります。
 ※積立による購入は将来の収益を保証、基準価額下落時における損失を防止するものではありません。
 ※計算過程で出る端数の処理等、損益比率計算過程において簡略化した計算式を用いています。

セミナーのお知らせ

参加人数に限りがございます。お申し込みは弊社 HP まで♪ (<https://www.39asset.co.jp/html/seminar/index.htm>)

セミナータイトル	開催日	開催地	時間	講師
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	9月12日 (火)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	9月13日 (水)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとうファンドの魅力とは ～長期投資と国際分散投資で資産形成～	9月14日 (木)	東京	19:00~ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	9月15日 (金)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【これだけは知っておくべき法律知識】 第3回不動産編	9月16日 (土)	東京	10:00~ 11:30	弁護士 宇田川 高史 氏 (はるか法律事務所)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	9月19日 (火)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	9月20日 (水)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	9月21日 (木)	富山	18:30~ 20:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	9月22日 (金)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
ありがとうファンドの魅力とは ～長期投資と国際分散投資で資産形成～	9月25日 (月)	東京	19:00~ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	9月27日 (水)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとうファンドの魅力とは ～長期投資と国際分散投資で資産形成～	9月28日 (木)	東京	19:00~ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	9月29日 (金)	東京	18:30~ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
よくわかる投信の選び方・見直し方 ～こんなファンドは買ってはいけない！～	9月30日 (土)	東京	10:00~ 11:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	10月14日 (土)	札幌	9:30~ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	10月21日 (土)	東京	13:30~ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	10月28日 (土)	名古屋	13:30~ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	10月29日 (日)	大阪	9:30~ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	11月11日 (土)	福岡	13:30~ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	11月12日 (日)	長崎	13:30~ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
ありがとうファンド第13期運用報告会	11月18日 (土)	仙台	13:30~ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)

10月から**第13期運用報告会**を全国で開催いたします！
 ありがとうファンドの運用実績から今後の見通し、投資戦略まで
 詳しくご報告させていただきますのでご期待ください。
 皆さまのご参加をお待ちしております♪



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目録見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

🌸 平成29年度 毎月定期購入サービスのスケジュール

今後のスケジュールになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取扱いとなりますのでご了承ください。

	【新規で定期購入を申込】 【引き落とし口座変更】	【定期の引落とし金額を変更】 【定期引落としを中止】	【引落日】	【約定日】 (ファンドの購入日)
9月分	受付終了	受付終了	9月6日(水)	9月19日(火)
10月分	受付終了	9月26日(火)	10月6日(金)	10月19日(木)
11月分	10月5日(木)	10月24日(火)	11月6日(月)	11月16日(木)
12月分	11月2日(木)	11月24日(金)	12月6日(水)	12月18日(月)

🌸 ありがとうファンド売買申込不可日のお知らせ

下記の売買申込不可日にお申込みされた場合、自動的に翌営業日以降の受付となりますのでご注意ください。

9月	4日(月)	労働者の日	ニューヨーク証券取引所休業日
10月	-	-	-
11月	1日(水)	万聖節	ルクセンブルグの銀行休業日

🌸 ありがとうファンドのリスク及び手数料等について

リスク	当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはおお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。
手数料	申込手数料・換金手数料・信託財産留保金はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.972%(税抜 0.9%)の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.6%±0.2%(概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他費用	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 ※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

※リスク・費用等の詳細につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。目論見書のご請求は、ありがとう投信(株)カスタマーサービス部まで。【〒110-0005 東京都台東区上野 3-19-4 フリーコール 0800-888-3900】

【レポートで使用している指数の注記】騰落率は、FACTSETよりデータを参照し、弊社にて計算しております。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。S&P500種指数(S&P500)に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI に帰属します。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。